

小学校第6学年 外国語活動 学習指導案

期 日 平成28年10月25日(火)第5校時

場 所 合志市立西合志中央小学校 6年3組教室

指導者 教諭 金子 亜樹

1 単元名

「Lesson6 What time do you get up?」(Hi, friends! 2 文部科学省)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領における「コミュニケーションに関する事項」(2)「積極的に外国語を聞いたり、話したりすること」を受け、世界には時差があることに気付き、世界の様子に興味を持つとともに、生活を表す表現や一日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しみ積極的に自分の一日を紹介したり、友だちの一日を聞き取ったりすることをねらいとしている。

また、生活を表す表現に時間を付けて伝えることに加え、既習事項を活用しながら、自分の生活や修学旅行のおすすめプランなどを伝えることで、相手意識や目的意識を高め、**コミュニケーションの目的を明確にし、英語学習に対する意欲を高めたい。**

これらのことから、本単元において生活やその時刻を尋ねたり答えたりする学習を行うことは、コミュニケーションの場面に応じた表現をするという資質・能力の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「人権意識をもち、学び続ける意欲のある、感性豊かな、健やかな体の子どもを育てる」及び目指す児童像の「思いやりを持ち、誰に対しても温かく接する子ども」の実現につながるものであると捉える。

(2) 系統観

第5学年(6月)	第6学年(6月)	第6学年(10月) 本時	第6学年(1月)
Lesson 3 「How many? いろいろな物を数えよう」 How many pencils? One/Two/Three Four/Five/dogs 数	Lesson 3 「I can swim. できることを紹介しよう」 I can play ~ . Can you play ~? Yes, I can. No, I can' t. スポーツ名・楽器 動作を表す表現	Lesson 6 「What time do you get up? 一日の生活を紹介しよう」 What time is it? It' s eleven. I get up at six. What time do you get up? 一日の生活を表す表現	Lesson 8 「What do you want to be? 『夢宣言』をしよう」 What do you want to be? I want to be soccer player. 職業名

(3) 児童観

本学級の児童は明るく、真面目な児童が多い。外国語の授業が好きだと答えている児童が27名、あまり好きではないと答えた児童が1名おり、その理由の多くがゲームや歌が好きだと答えている。中には、日本語と英語の違いに興味を持つ児童や分からないことが分かっていくことに楽しさを感じている児童もいる。一方で、英語を話す事に関する質問では、好きと答えた児童とあまり好きではないと答えた児童が半数に分かれている。その他にも振り返りの活動やジェスチャーなどの表現に関して消極的な回答が目立った。また、外国語で学習したことを活用する場がないと考えている児童や学習した表現がどんな場面で使えるのか理解していない児童もいる。

これらのことから、児童は外国語活動には意欲的であるものの英語の表現やコミュニケーションをとることに自信を持てずにいることが分かった。また、毎時間の活動内容は分かっているもののその時間の学習や既習事項の学習をすることによって、どのようなことが出来るようになるのか理解していないということが分かる。

(4) 指導観

- 単元を通して、繰り返しの練習だけでなく体験的な活動などの様々な方法で基本表現に慣れ親しませ、表現することに対する抵抗を減らしていく。
- ALT とのデモンストレーションによって、単元のゴールの姿や毎時間の活動内容を理解させる。
- 相手意識，目的意識を持たせる活動を取り入れることで，伝えたい，分かってほしいという気持ちを高め，コミュニケーションポイント(ジェスチャー，アイコンタクト，クリアボイス，スマイル)を活用できるようにする。
- 本時の学習で何を身に付けたのか，次の学習にどう生かしていけるのか児童自身が意識できるように相互評価や自己評価シート，CAN-DO リストの工夫を図る。

<p>学びを引き出す 学習活動を生む 「問い」の工夫 (言語活動の充実)</p>	<p>①児童の学習意欲を高め，CAN-DO リストに基づく相手意識を引き出す学習課題を設定する。</p> <p>②語彙や表現を慣れ親しむ活動を通して，児童が自信を持って表現できる活動の設定をする。</p>
<p>学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り</p>	<p>③中間評価や相互評価により，コミュニケーションへの価値付けを行い，コミュニケーションへの気付きや態度を育む。</p> <p>④振り返りの場面において，学習内容を振り返るだけでなく，CAN-DO リストに基づく振り返りカードを用い，自己評価を行うことで，次時への意欲へとつなげる。</p>
<p>学びを支える 学びのUD化とICT の活用及び支持的風土</p>	<p>⑤授業の流れを初めに確認するとともに，視覚的にも分かりやすい構造化された板書や ICT 等の視覚教材を工夫することで学びを共有できるようにする。また，コミュニケーションスキルにおいては継続的に指導を行う。</p>

3 単元の見通しと評価規準(参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」)

単元の見通し	世界には時差があることに気付き，世界の様子に興味を持つとともに，一日の生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現に慣れ親しみ，積極的に自分たちの生活の様子を伝え合おうとする。	
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
①積極的に，自分の一日を紹介したり，友だちの一日を聞き取ったりしようとしている。	①時刻や生活を表す表現を聞いたり言ったりしている。 ②生活を表す表現や，一日の生活についての時刻を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	①世界には時差があることに気付き，世界の様子に興味を持っている。

4 指導・評価の計画(5時間取扱い 本時4/5)

単元を貫く問い：5年生におすすめ！「修学旅行の一日」を紹介します！

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 世界には時差があることに気付き、世界の様子に興味を持つ。 2 動作や時刻の言い方を知る。	【外国語への慣れ親しみ①】 (行動観察・振り返りカード点検) 【言語や文化に関する気付き①】 (行動観察・振り返りカード分析) 【学びを引き出す】 ①世界の時差に目を向けることで世界のへの興味や自分たちの生活の表現についての関心を持つことができるようにする。
二	1	3 動作や時刻の言い方に慣れ親しむとともに、生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現を知る。	【外国語への慣れ親しみ①】 (行動観察・振り返りカードの点検) 【学びを引き出す】 ②動作や時刻の言い方に無理なく慣れ親しませるために、様々な活動を通して繰り返し言ったり聞いたりさせる。
三	1	4 生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現に慣れ親しみ、自分の休日について紹介し合う。	【外国語への慣れ親しみ②】 (行動観察・振り返りカードの点検) 【学びを引き出す】 ②動作や時刻の言い方に無理なく慣れ親しませるために、様々な活動を通して繰り返し言ったり聞いたりさせる。
四	1 本時	5 生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現に慣れ親しみ、修学旅行の一日のスケジュールを考え表現する。	【コミュニケーションへの関心・意欲・態度①】 (行動観察・振り返りカードの点検) 【外国語への慣れ親しみ②】 (行動観察・振り返りカードの点検) 【学びを振り返る】 ③グループで考えたり、見せ合ったりすることで、児童の多様な気付きを出し合う。 【学びを支える】 ③CAN-DO リストや授業の流れを提示、児童が見通しを持って授業に臨むことができるようにする。
五	1	6 5年生に向けて、自分たちが行った修学旅行の一日のスケジュール紹介の発表会を行う。	【コミュニケーションへの関心・意欲・態度①】 (行動観察・振り返りカードの点検) 【学びを振り返る】 ③CAN-DO リストに基づく振り返りカードで振り返りを行う。 【学びを支える】 ⑤実際の発表ではタブレットを使い録画することで、自分たちの発表を観て改善したり、意欲を高めたりする。

	(3) 次時への見通しを持つ。	や, 自分が言えたことなどの児童の多様な気付きを出し合い次時への意欲へとつなげるような振り返りの時間とする。	
--	-----------------	--	--

.....
【言語活動】
.....
言語活動の設定の目的と
.....
内容を示す。
.....